

# 1 若者が帰ってこられる産業をつくる

別紙：提言

## 【「いいだ未来デザイン2028」次年度（H31）への提言】

### ●地域内経済循環

	・田舎へ帰ろう戦略と同期する地域内経済循環思考を取り入れ、LM3の指標を調査すべきでは。（原）
	・地域内循環の考えに立ち、「池消地産」「地域内貿易」の考え方を取り入れられたい。また、これらの状況を確認していける指標を研究されたい。（岡田）
	・経済自立度の考え方・・・地域経済循環を創る（藤山浩先生）。（村松）
	・生産実績だけでは評価できない、輸出額に対して輸入額が多ければ地域経済は赤字となる。状況を調査し、どの部分が良いか・悪いかを知った上で、戦略を考える必要がある。「循環型経済をつくる、LM3の調査実施すべき」（熊谷）
	・森林管理認証について、今後は区域検討（他財産区など拡大）、認証森林内の路網整備→木材搬出→地元製材加工・商品化→地元活用・域外販売など、経済の地域内循環を考える視点も大切。（福澤克）

### ●新たな産業振興と人材育成の拠点

	・産業センターの所管する規模が拡大するため、マーケティングや管理運営力のある人材育成、マネジメント力を高められたい。（湯澤）
	・当地域の悲願である高等教育機関実現のために、信州大学が目指す南信州キャンパスと、市が目指そうとしている大学院大学機能との統合を検討されたい。（湯澤）
	・工業技術センター・EMC試験室利用件数が伸び悩んでいるが、要因分析と新たな試験機も導入されたことから利用してもらうためのPR手法を再考されたい。（竹村）
	・課題の中で「公的試験場を管理運営できる専門人材の確保が喫緊の課題」として挙げられているが、今後の方向性に具体的なことが示されていないので、早急に「いつまでに」「だれが」「どのように人材確保するのか」を詰められたい。（竹村）
	・「新たな産業振興の拠点」について、今後は整備した施設をいかに活用し、産業振興の拠点の形成につなげていくかという視点が必要。（福澤克）

### ●地域産業（地場産業）

	・新産業が全てに最優先するように思えるが、地場産業や手を打ち支えることが必要な弱い産業に対する行政の指向が見えない。このまま放置すれば衰退してしまう、地場産業に対する目に見える支援こそ今必要ではないか。（原）
	・経済政策全般に身の丈に合った、言葉が踊る産業像ばかりではなく、地域の人に言葉の通じる、身近な視点で今一度落ち着いて取り組むべきでは。（原）
	・MRJの開発の大幅な遅れなど、新たな産業振興として航空宇宙産業に特化することは危険である。若者回帰に繋がる新たな産業とは何か、地元企業が行政に何を求めているかを精査し、地場産業の育成に取り組まれたい。（湯澤）
	・地域産業の支援の強化・・・養蚕・染物織物（熊谷友幸先生）。（村松）

●起業・就業支援

I-Port	・I-Portの機能強化。(村松)
I-Port	・「I-Port」による支援体制は整えられたが、「I-Port」の情報を探し出すのに苦労することから、飯田市HPのトップページから情報入手できるよう改善されたい。(特に「ハジメマシテ、飯田」という言葉自体に認知度がないため、一般市民は探し出すのに苦労する。)(竹村)
起業	・若者の起業後の支援・・・江津市のような受賞者を継続的に支援していく仕組みの構築。(村松)
起業	・起業支援では、同じ様な年代のスタッフが関わる相談所が有ってもいいのでは。(原)
農業法人	・農林業の担い手不足は深刻な状況にある。農業組合法人の設立などへ向け、行政として指導・支援を検討されたい。(熊谷)
人材育成	・航空産業分野だけでなく農林業を含め地域の産業を担う人材育成のため、支援策を検討されたい。(熊谷)
若者就労	・若者の就労指向を、ふるさと回帰のためのキャリア教育に置くことも有ると思うが、自己実現とかライフスタイルに置き換えて考えられるような、選択肢の有る地域環境も目指すべきでは。そのアピールも必要では。(原)
若者就労	・(昨年も提案)若者が帰って来られる産業をつくることを目標とするならば「若者が志向する産業とは何か」を捉え地域産業の実態との乖離等を勘案し、その上で政策的に何を支え、育むか取り組まされたい。(熊谷)
新卒者就労 奨励金	・益田市のような移住支援策として新卒者就労奨励金の創設。(村松)
特区	・果実酒特区の認定を受けた以降、具体的な動きが見えない。早急に「いつ」「だれが」「何を」「どう作り」「どのように販売するか」という具現化の素案を示されたい。(竹村)